

環境目標と実績

■2008年度環境目標の達成状況と2010年度環境目標

環境保全活動の分類	項目	2008年度目標	基準値(1990年度)	2008年度実績	結果	2010年度目標
地球温暖化防止への取り組み	鉄道事業のCO ₂ 総排出量	(1990年度比) 22%削減 (215万t)	276万t-CO ₂	226万t-CO ₂ …温対法(18%削減) 210万t-CO ₂ …対目標管理数値*3(24%削減)	達成	(1990年度比) 2030年度までに50%削減 276万t-CO ₂ ⇒138万t-CO ₂ [138万t-CO ₂ 削減] (1990年度比) 2017年度までに32%削減 276万t-CO ₂ ⇒188万t-CO ₂ [88万t-CO ₂ 削減]
	自営火力発電所からの単位発電量あたりのCO ₂ 排出量	40%削減	726g-CO ₂ /kWh	465g-CO ₂ /kWh …温対法(36%削減) 444g-CO ₂ /kWh …対目標管理数値*3(38.9%削減)	目標に対して1.1%未達成	CO ₂ 排出量の管理は「鉄道事業のCO ₂ 総排出量」で行うため 目標設定はなし
	省エネルギー車両比率	82%	—	86%	達成	86%
	【新設】列車運転用電力量	—	—	40.6億kWh	—	2%削減(2006年度比) 41.7億kWh⇒40.9億kWh [0.8億kWh削減]
	単位輸送量あたり列車運転用消費エネルギー	19%削減	20.6MJ/車キロ	17.5MJ/車キロ …省エネ法(15%削減) 16.7MJ/車キロ …対目標管理数値*3(18.9%削減)	目標に対して0.1%未達成	原単位の管理は、新設する「単位輸送量あたり列車運転用電力量」で行うため目標設定はなし
	【新設】単位輸送量あたり列車運転用電力量	—	—	1.80kWh/車キロ	—	2%削減(2006年度比) 1.85kWh/車キロ⇒1.81kWh/車キロ [0.04kWh/車キロ削減]
	【新設】駅・オフィス等における省エネ	—	—	153億MJ	—	4.5%削減(2006年度比) 153億MJ⇒146億MJ[7億MJ削減]
	特定フロン使用大型冷凍機	100%削減	82台	100%削減	達成	—
資源循環への取り組み	駅・列車ゴミのリサイクル率	45%	—	70%	達成	70%
	総合車両センター等で発生する廃棄物のリサイクル率	85% (対象4年間平均値*1)	—	92% (対象4年間平均値*1)	達成	95%
	設備工事で発生する廃棄物のリサイクル率	92% (対象4年間平均値*1)	—	90.7% (対象4年間平均値*1)	目標に対して1.3%未達成	92%
	一般廃棄物のリサイクル率	43%	—	55%	達成	全グループ会社が個別に数値目標を設定することとしたため目標設定はなし
	事務用紙の再生紙利用率	100%	—	92%*4	目標に対して8%未達成	100%
化学物質管理	自営火力発電所からのNOx排出量	63%削減	994t	61.9%削減(379t)	目標に対して1.1%未達成	現状の技術レベルで可能な対策が完了したため目標設定はなし
沿線での環境活動	東北・上越新幹線の騒音対策*2 75dB以下 (騒音対策対象地域について)	100% (2009年度達成目標)	—	81%	継続中	100% (2009年度達成目標)
環境コミュニケーション	毎年具体的な環境保護活動	森づくりへの参加等	—	18箇所、5万4千本	—	森づくりへの参加等
環境マネジメント	【新設】全グループ会社が具体的な数値目標を設定	—	—	設定済	—	全グループ会社が数値目標を設定

表内 ■ はグループの目標

*1 対象4年間平均値 2005年度～2008年度の平均値。 *2 東北・上越新幹線騒音対策 国の指導である75dB対策については既に完了しています。指導されている以外の地域について、現在、当社は独自に改良工事を進め2009年度に完了する予定です。

*3 対目標管理数値 JR東日本の取り組みの経年変化を把握するため、2008年度目標を設定した際の係数(日本経団連環境自主行動計画、電気事業連合会の係数を参考に算出)による数値にて目標管理しています。 *4 事務用紙の再生紙利用率 再生紙の取り扱いについては、メーカーが再生紙として販売したものは再生紙として集計しています。